第３講

日食をはずしてどうする！　－暦をめぐる江戸時代の朝幕関係－
（2020 年度第３問）

次の(1)～(2)の文章を読んで，下記の設問Ａ・Ｂに答えなさい。

(1)　日本では古代国家が採用した唐の暦が長く用いられていた。渋川春海（しぶかわはるみ）は元（げん）の暦をもとに，明で作られた世界地図もみて，中国と日本（京都）の経度の違いを検討し，新たな暦を考えた。江戸幕府はこれを採用し，天体観測や暦作りを行う天文方を設置して，渋川春海を初代に任じた。

(2)　朝廷は幕府の申し入れをうけて，1684 年に暦を改める儀式を行い，渋川春海の新たな暦を貞享暦と命名した。幕府は翌 1685 年から貞享暦を全国で施行した。この手順は江戸時代を通じて変わらなかった。

(3)　西洋天文学の基礎を記した清の書物『天経或問（てんけいわくもん）』は，「禁書であったが内容は有益である」と幕府が判断して，1730 年に刊行が許可され，広く読まれるようになった。

(4)　1755 年から幕府が施行した宝暦暦は，公家の土御門泰邦（つちみかどやすくに）が幕府に働きかけて作成を主導したが，1763 年の日食の予測に失敗した。大坂の麻田剛立（あさだごうりゅう）ら各地の天文学者が事前に警告した通りで，幕府は天文方に人員を補充して暦の修正に当たらせ，以後天文方の学術面での強化を進めていった。

(5)　麻田剛立の弟子高橋至時（たかはしよしとき）は幕府天文方に登用され，清で編まれた西洋天文学の書物をもとに，1797 年に寛政暦を作った。天文方を継いだ高橋至時の子渋川景佑（しぶかわかげすけ）は，オランダ語の天文学書の翻訳を完成し，これを活かして 1842 年に天保暦を作った。

設問

Ａ　江戸時代に暦を改めるに際して，幕府と朝廷はそれぞれどのような役割を果たしたか。両者を対比させて，２行（60 字）以内で述べなさい。

Ｂ　江戸時代に暦を改める際に依拠した知識は，どのように推移したか。幕府の学問に対する政策とその影響に留意して，３行（90 字）以内で述べなさい。

解いてみましょう（第３講）Ａについて

1　問われている（求められている）ことを確認する。

ア　江戸時代に暦を改めるに際して，（ア）　幕府　と（イ）朝廷　がそれぞれ（ウ）果たした役割　を、両者を対比させて書く。

イ　２行（60 字）以内で書く。

2　資料と教科書（山川出版社『詳説日本史Ｂ』）の内容とを照らし合わせる。
関係する教科書のページと内容は、

教科書の　174 ページの 21 行目～175 ページの８行目

⇩

1620（元和６）年には，徳川秀忠の娘和子（東福門院）を後水尾天皇に入内させたのを機に，朝廷に残されていた権能（官位制度・改元・改暦）も，幕府の承諾を必要とすることにして，幕府による全国支配に役立てた。

教科書の　215 ページの 16 行目～19 行目

⇩

天文・暦学で渋川春海（安井算哲）は京都の土御門家に入門のうえ，暦の誤差を修正して日本独自の暦をつくった（貞享暦）。この功により，幕府は天文方を設け，渋川をこれに任じた。

3　与えられた資料をもとに作成した「東大チャート」を解く。

次のページに「東大チャート」があります。上記の空欄に当てはまる語句も記されています。

東大チャート　「江戸時代の改暦に幕府と朝廷が果たした役割」（2020 年度第３問設問Ａ）

（ □ は、ほぼ抜き出して入れる。 ▭ へは考えて語句を入れる。）

(1)　日本では古代国家が採用した唐の暦が長く用いられていた。渋川春海は元の暦をもとに，明で作られた世界地図もみて，中国と日本（京都）の経度の違いを検討し，新たな暦を考えた。江戸幕府はこれを採用し，天体観測や暦作りを行う天文方を設置して，渋川春海を初代に任じた。

【教科書の記述】
天文・暦学で渋川春海（安井算哲）は京都の土御門家に入門のうえ，暦の誤差を修正して日本独自の暦をつくった（貞享暦）。この功により，幕府は天文方を設け，渋川をこれに任じた。　(P215. L16～L19)

(2)　朝廷は幕府の申し入れをうけて，1684 年に暦を改める儀式を行い，渋川春海の新たな暦を貞享暦と命名した。幕府は翌 1685 年から貞享暦を全国で施行した。この手順は江戸時代を通じて変わらなかった。

(5)　麻田剛立の弟子高橋至時は幕府天文方に登用され，清で編まれた西洋天文学の書物をもとに，1797 年に寛政暦を作った。天文方を継いだ高橋至時の子渋川景佑は，オランダ語の天文学書の翻訳を完成し，これを活かして 1842 年に天保暦を作った。

【幕府】
貞享暦を採用し、天文方を設置して宝暦暦、寛政暦、天保暦などの ①　　暦を ②　　、 ③　　する という ④　　的な役割を果たした。

【朝廷】
改暦の ⑤　　を行い、暦に ⑥　　するという ⑦　　的な役割を果たした。

【教科書の記述】
朝廷に残されていた権能（官位制度・改元・改暦）も，幕府の承諾を必要とすることにして，幕府による全国支配に役立てた。
(P175. L3～L8)

4　60 字に要約する。

解いてみましょう（第３講）Ｂについて

ア　江戸時代に暦を改めるに際して　(ｱ)　依拠した知識　の　(ｲ)　推移　について書く。

イ　幕府の　(ｳ)　学問に対する政策　と　(ｴ)　その影響　に留意して書く。

ウ　３行（90 字）以内で書く。

２　資料と教科書の内容とを照らし合わせる。
関係する教科書のページと内容は、

教科書の　215 ページの 16～19 行目

⇩

天文・暦学で渋川春海（安井算哲）は京都の土御門家に入門のうえ，暦の誤差を修正して日本独自の暦をつくった（貞享暦）。この功により，幕府は天文方を設け，渋川をこれに任じた。（元禄文化の「諸学問の発達」）

教科書の　225 ページの 10～16 行目

⇩

将軍徳川吉宗は，漢訳洋書の輸入制限をゆるめ，青木昆陽・野呂元丈らにオランダ語を学ばせたこともあって，洋学はまず蘭学として発達し始めた。洋学をいち早く取り入れたのは，実用の学問（実学）としての医学である。

教科書の　245 ページの９～11 行目

⇩

洋学では，幕府が天文方の高橋至時に西洋暦を取り入れた寛政暦をつくらせた。また天文方に蛮書和解御用を設け，至時の子高橋景保を中心に洋書の翻訳に当たらせた。

３　与えられた資料と教科書の記述から抜き出して作成した「東大チャート」を解く。

次のページに「東大チャート」があります。上記の「関連する教科書のページと内容」からの抜粋も記されています。

東大チャート「江戸幕府が暦の作成に依拠した知識の推移」（2020 年度第３問設問Ｂ）

（［　　］へは、ほぼ抜き出して入れる。［　　］へは、考えて語句を入れる。）

【教科書の記述】
渋川春海（安井算哲）は元禄文化の「諸学問の発達」に記載（P215）

(1) 日本では古代国家が採用した唐の暦が長く用いられていた。渋川春海は元の暦をもとに，明で作られた世界地図もみて，中国と日本（京都）の経度の違いを検討し，新たな暦を考えた。江戸幕府はこれを採用し，天体観測や暦作りを行う天文方を設置して，渋川春海を初代に任じた。

【教科書の記述】
（享保の改革で）将軍徳川吉宗は，漢訳洋書の輸入制限をゆるめ，青木昆陽・野呂元丈らにオランダ語を学ばせたこともあって，洋学はまず蘭学として発達し始めた。洋学をいち早く取り入れたのは，実用の学問（実学）としての医学である。（P225. L10～16）

(3) 西洋天文学の基礎を記した清の書物『天経或問』は，「禁書であったが内容は有益である」と幕府が判断して，1730 年に刊行が許可され，広く読まれるようになった。

(4) 1755 年から幕府が施行した宝暦暦は，公家の土御門泰邦が幕府に働きかけて作成を主導したが，1763 年の日食の予測に失敗した。大坂の麻田剛立ら各地の天文学者が事前に警告した通りで，幕府は天文方に人員を補充して暦の修正に当たらせ，以後天文方の学術面での強化を進めていった。

(5) 麻田剛立の弟子高橋至時は幕府天文方に登用され，清で編まれた西洋天文学の書物をもとに，1797 年に寛政暦を作った。天文方を継いだ高橋至時の子渋川景佑は，オランダ語の天文学書の翻訳を完成し，これを活かして 1842 年に天保暦を作った。

元禄期に渋川春海は、元の暦と明の世界地図という ① の知識に依拠して暦を作成した。

享保の改革で、徳川吉宗が ② たことで ③ としての ④ ＝ ⑤ の学問が ⑥ し始めた。

高橋至時は麻田剛立の弟子であることから、麻田剛立は、④ 者だと考えられる。

⇩

天文方は ④ を取り入れ、人員を補充して学術面での強化を進めた。

寛政期には、清＝ ① を経て得た ⑤ の知識に依拠して暦を作成した。

天保期には、オランダ＝ ⑤ の知識に ⑦ 依拠して暦を作成した。

【教科書の記述】
洋学では，幕府が天文方の高橋至時に西洋暦を取り入れた寛政暦をつくらせた。また天文方に蛮書和解御用を設け，至時の子高橋景保を中心に洋書の翻訳に当たらせた。（P245. L９～11）

抜き出したものをまとめる

元禄期は、元の暦と明の世界地図という ① の知識に依拠して暦を作成した。

享保の改革で、徳川吉宗が ② たことで ③ としての ④ が ⑥ し始めた。

天文方は ④ を取り入れ、人員を補充して学術面での強化を進めた。

その結果、寛政期には ① を経て入手した ⑤ の知識に依拠して暦を作成し、天保期には ⑤ の知識に ⑦ 依拠して暦を作成した。

⇩

4　90 字に要約する。

今回、問題を解くことで学んだこと